

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)
(公 印 省 略)

営農情報 8

冬季におけるスクミリンゴガイ対策について

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、暖冬年では越冬率が上がることが知られています。6年産水稲では、1～2月の厳寒期の気温が高く推移したため、スクミリンゴガイが多く越冬したほ場において、本種による大きな被害が発生した事例が見られました。

7年産水稲作に向けた準備として、冬のうちからスクミリンゴガイ対策を行い、本種のほ場内における密度を減らすよう努めましょう。

対策の内容・ポイント

- 麦や野菜等の作付けが無いほ場については、1月中～下旬頃の耕起により、ほ場内のスクミリンゴガイを物理的に破壊するとともに、土中の越冬貝を寒風にさらして、越冬数を減らす。
※土中の比較的浅い位置に潜って越冬するため、耕起深度を浅く、ロータリ回転数を上げて細かく碎土することが有効。
- スクミリンゴガイ未発生ほ場への侵入を防止するため、既に発生しているほ場等から土を持ち込まないように、機械に付着した土をしっかりと洗い落とす。
- 水路内に堆積した泥の中でも越冬するので、泥を掘り上げて広げ、寒風にさらす。
※局所的な取組では効果が得られにくいため、地区全体で実施することが重要。

以上